

「福祉」について体験的に学ぶことで、理解を深めることができました

1年 JRC福祉体験学習 2月13日(金)

本校は、青少年赤十字＝JRCの加盟登録校です。本年度も、学校経営方針の指導の重点の一つに掲げ、日々の教育活動に取り入れるとともに、様々な取り組みを行ってきました。今回は、1年生が「総合的な学習の時間」として「福祉体験学習」に取り組みました。これは、本校の「総合的な学習の時間」が、学年ごとにテーマを設定しており、1年生は“福祉”をテーマとしていることから、その一貫として行いました。

2月13日(金)、5・6時間目を使い、2F アリーナ会場「ボッチャ体験」、1F 武道場会場「高齢者疑似体験」、グランド通路(点字ブロックあり)会場「視覚障がい者体験」の3会場3テーマで、体験活動を行いました。

「高齢者疑似体験」では、おもりやサポーター等の装具を使って「高齢者」の疑似体験をしました。実際に装具を装着してみると、いかに身体の動きが制限された状態で生活しているか身をもって知ることができ、どんな支援や配慮が必要なのかも実感をもって理解することができました。



「視覚障がい者体験」では、アイマスクを装着し目が見えない状態となり、白杖を使って点字ブロックのある通路を歩く体験をしました。また、その歩行介助の体験も同時に行いました。直線の通路と分かっているにもかかわらず、白杖だけで進む方向を確認するのは難しく、また、それを介助するのも、相手に分かりやすい声かけやリードする必要があることが分かりました。

「ボッチャ体験」では、チームに分かれ、対抗戦を行いました。一投ごとに変化する状況に応じて戦略を組み立てていく必要があるため、奥深さを感じる一方、ただ“投げる”だけの競技なので、男女や体格差などにかかわらず参加でき、楽しく競技をすることができました。



実施にあたり、装具等を日本赤十字社東京都支部から、競技資材を荒川区役所スポーツ振興課からお借りしました。また、ボッチャの会場設営・競技運営では、荒川区スポーツ推進委員の方々にご準備・ご指導等いただきました。ご協力いただき誠にありがとうございました。